

学校だより 7月号

令和5年6月30日



横浜市立義務教育学校

緑園学園

RYOKUEN COMPULSORY EDUCATION SCHOOL

横浜市泉区緑園五丁目28番地 前期課程 ☎045(811)6710 後期課程 ☎045(811)6030

あじさい きのう まこと きょう うそ  
紫陽花や 昨日の誠 今日の嘘

後期課程副校長 田中 光弘

5月に行われた体育祭を見て、学年ごとの様々な工夫や生徒たちの頑張りに、昨年よりも更に良いものにしていこうとする思いを感じることができました。目の前の競技に一人ひとりが全力で取り組み、協力し、声を掛け合って挑戦する姿は、いつの時代であっても素晴らしいものだと思います。

本校は校訓の中に「自主 協働 創造」を掲げています。物事を自分のこととしてとらえて、実行すること。周囲の人と力を合わせて取り組むこと。そして、新しい物事を生み出していくこと。その具体的な姿が体育祭の中に見られました。AIや様々な情報技術の発展している現代社会は、先を予測するのが困難な時代であると言われていています。このような時代の中で、学校教育には「様々な変化に積極的に向き合うこと」「他者と協働して課題を解決していくこと」「情報を再構築するなどして新たな価値につなげていくこと」を子どもたちが身に付けられるようにしていくことが求められています。体育祭という昔からある学校行事ではありますが、今の時代に生きる子どもたちにも成長の機会を与えられる大切な行事なのだと、改めて感じることができました。

さて、冒頭の句ですが正岡子規が詠んだ句です。紫陽花の花は日々、色の濃さを深めていきます。その色の移ろいを人の心の移ろいやすさに例え、擬人化して表現していると言われていています。私たちの生きている今も、日々変化を繰り返しています。

今から15年前の2008年(ちょうど9年生が生まれた頃)に、あるものが日本で初めて販売されました。スマートフォンです。携帯電話が日本で使用されはじめたのが、今から38年前の1985年、当時は重さが3kgもありました。さらに、電話そのものの特許が初めて取得されたのが1876年(今から147年前)であることを考えると、15年前に販売の始まったスマートフォンの進化はものすごいものだと分かります。今から15年後の2038年にはどのような世の中になっているのか想像すら難しくなっています。

日々変化する、それも、ものすごいスピードで変化する現代社会です。だからこそ、大切にしたいものがあります。8年生の自然教室に引率したときのことです。小網代の森という場所で、山から流れてきた川が海と交わる場所を見ました。関東でそれが見られる場所は小網代の森しかないそうです。その場所を見た生徒が「初めてこういう所を見た」と言っていました。その一言を聞いたのが、私の一番の思い出でした。どんなに技術が発展しても、良さ、美しさ、正しさを判断していくのは人間の役割です。多くのものを見て、感じて、新しい価値へとつなげていって欲しいと願っています。

紫陽花はその色を日々変えていきます。しかし、その変化は見る人の心を和ませます。緑園学園での日々を送る中で、子どもたちの日々の変化がよりよい生き方につながるよう、これからも取り組んで参ります。